

ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ

# 第22号

## 執筆者

### @短信

### 齋藤 清二 新連載第2回

4月に京都に来てから、会う人ごとに、「京都の夏は暑いですからね、覚悟しておいてくださいよ」と言われてきた。「なーに、富山も北陸は涼しいだろうと誤解している人が多いけど、最近は毎年暑いし、それにフェーン現象って、日本海側の人以外は知らないから…」とたかを括っていたら、7月の末くらいから、「確かに京都は暑い！」と実感するようになった。幸い夏休みは、富山でかなりゆっくりと過ごせたが、天気予報を見る限りでは、平均すると、毎日2〜3℃くらい京都の方が気温が高いようで、やっぱり真夏は避難してよかったと思った。とはいえ、そろそろ涼しくなってきたので京都に戻ってみると、やはり見るところはたくさんあるし、昨年までと比べると段違いに人間的な生活をさせてもらっている。これから秋の紅葉の季節を、今から楽しみにしているところである。

### 石田 佳子 新連載第2回

先日、夫が“右足”の小指をベットの角にぶつけてしまい、翌日になっても痛むというので、骨が折れていないことを確認するため、クアラルンプール市内の私立総合病院へ行きました。初診の場合は昼間でも「救急」へ行くことになっているため、そこで受け付けを済ませてから待たされ

ること数時間の後、やっと診察を受けることができ、レントゲン撮影も会計も済ませて帰りかけていたところ、夫の携帯電話に「至急戻ってくれ」との連絡がありました。「いったい何事？」と急いで戻ると、職員は何事もなかったような様子で、「書類に“左足の怪我”と書いてしまったから書き直させて欲しい」とのこと。

今回は大した怪我でなく実害はなかったのですが、これがもっと深刻な病気や怪我だったらと考えると、突っ込みどころが満載すぎて呆れてしまいます。冗談まじりながら「たとえ右足が悪くても左足を切り落とされたりしそうで怖い」と言っていた在マレーシアの友人(日本人)の慧眼に改めて脱帽しました。なおこのような場合には、「ここはマレーシア！」という呪文を三回唱えて心を落ち着ける(他ない)、という説もあります。ここはマレーシア！ここはマレーシア！ここはマレーシア！…。

### 小池英梨子 新連載第2回

9月1日〜4日まで、どうぶつ基金の仕事で鹿児島県からフェリーで3時間の三島村竹島に行ってきます。島民72名、猫100頭の竹島は、糞尿の臭いや発情期の鳴き声など多くの問題を抱えています。これ以上問題を悪化させないためには連載で書かせていただいているようにTNRが必要です。



©公益財団法人どうぶつ基金  
しかし、離島となると動物病院へ運ぶのも簡単ではないし、費用もかさんでしまう。そこで、鹿児島三島村役場からの申請を受け、竹島地区会とNPO法人みしまですよ、の協力の元、どうぶつ基金による出張手術を行うことになりました。3日間で100頭全頭に不妊手術と、ノミダニ駆除、ワクチンを実施します。医療費やスタッフの旅費は全てどうぶつ基金が負担します。会場の準備や猫の捕獲とリターンは地元行政や島の方々が担う官民協働事業で

す。



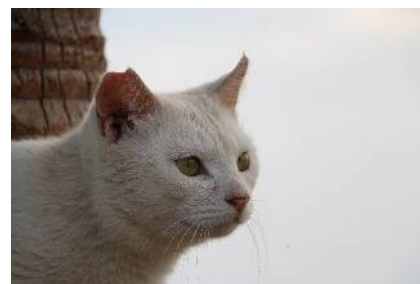
船酔いしないか、2日に1本のフェリーが運休しないか、忘れ物は無いか、それぞれですが、猫と島の方々のために頑張ってきます。興味を持ってくださった方はぜひ、下記リンクを見てください。

竹島のさくらねこ TNR 事業についてはこちら

<http://doubutukikin2010.blog58.fc2.com/blog-entry-615.html>

どうぶつ基金 HP はこちら

<https://www.doubutukikin.or.jp/>



「さくらねこ」は不妊手術済みの印桜のように皆から愛されますように

### しすてむきよたけ

### 新連載第2回

僕は、立命館大学大学院応用人間科学研究科が行っている「東日本・家族応援プロジェクト」に参加している(村本邦子さんの『周辺の記憶』を是非)。現地における活動期間中、「団士郎・家族漫画展」の常駐者だ。

今年の活動は例年より少し早く、8月27日から青森県むつ市で開催。今年は、準備期間からちょっとだけ加わらせていただいている。迷惑をかけつつ、そして、助けられながら、プロジェクトの立ち上げや共催いただいているスタッフがいることで、場に参加できる自分に気づかされる。

今年は、「家族漫画展」と上記活動と同じ漫画展であるが、「ココロかさなるプロジェクト」と新しい活動も。現役生や修了生

スタッフもあり、普段の漫画展とは違う展示会場となった。

来場される方もいつもとは違った。例えば、副編集長の千葉さん(『知的障害者の就労現場』)。ホンブロックの団遊さん(『街場の就活論』)と今回初の「web 漫画展」の制作者である駒ちゃんだ。一般的な展示会場であれば、近場のネットワークの人と会うことは多いが、これまでの家族漫画展はそうでなかったから、新鮮な体験だった。そして、会うだけで、もーちょっと工夫してみようかな！なんてワクワクも増量したりして。これは、いつもの漫画展でも同じ。共に創り上げていく人たちの存在は、メンバーの一人である僕のフットワークを軽くさせる。

また、会場を提供してくれる場で普段から仕事をされている方々と知り合っていく機会もそうだ。今回の場では、点字ブロックが、数時間前より綺麗になっていたり、にっこりと、ときに懸命に地上の道案内する職員さんと言葉を交わす機会があったことを思い出す。

「京阪三条駅」でさせていただけたことに感謝だ。



## 小林茂

(臨床心理士)

昨年から、日々、積み重ねる体験が、自分が良いと思えない粗い経験としか蓄積されていないことを感じるようになった。ただ忙しいだけで、自分がどんどん愚鈍になる感覚がある。もっと取り組みたいと

いう衝動に反し、思考が低下していく嫌な感じと言い換えても良い。そんなことを感じながら、自分の活動を再構築しなければならぬと思うに至った。浦河に来て8年となるが、そろそろ今の働き方を見直そうと考えている。専門性や生き方にこだわりを持つと、時々不便が生じる。大変でも安定した勤めや収入よりも、わがままが許される限り、自分が大事にしたいことをしたい。内田百閒よろしく「イヤダカラ、イヤダ」。自分のことながら困ったものである。

「人はパンだけで生きるのではない!」と、氣勢をあげる今日この頃です。

## 水野スウ

やっとやっと、私のこの夏の宿題が終わりました。いえ、マガジンの原稿のことではありません。

安保法案国会がはじまると同時に、私が自分に課した宿題のことです。私が日ごろ、おはなしの出前で語っている憲法のことを、一冊のちいさな本にまとめようと思いついたのが、5月末のこと。

書きはじめた時は、もっと薄いブックレットになるはずが、国会審議を通して、安保法案の中味が次々あきらかになり、それとともに、民主主義そのものが壊されていくエライ事態になってきました。

こりゃあもう、憲法の存立危機事態だわ!と確信して、リアルタイムの出来事も書き足していくうちに、あらら、152 ページにもなってしまいました。とはいえ B6 版なので、もとより、小さい本には違いないんですが。

目次からいくつか見出しをひろうと――紅茶の時間／私の依って立つところ／ホウテキアンテイセイ、って?／憲法違反はリトマス試験紙／あなたはほかの誰ともとりかえがきかない／13 条のうた／“ふだん”の努力／わたしの 12 条宣言／誰が書いたの? 日本国憲法／改正草案って、どんな案?／緊急事態条項に要注意／アンポホウセイ、どこが 9 条違反?／9 条を持っているということ／憲法を親友に／平和のひとかげら／みるく世がやゆら、etc.

ね、ちょっとおもしろそうでしょ? このブックレット、「わたしとあなたの・けんぼう BOOK」は、お値段もかわいい 600 円。

興味をもたれました方、ぜひ私までご一報くださいませ。sue-miz@nifty.com

## 高垣愉佳

2 週間程スペインへ行って来ました。マドリドを中心に、少し北にあるエスコリアル、そして南に下ってグラナダ、マラガ辺りをうろろしました。テロ対策からか、普通の警察官がマシンガンを持っている事に軽い衝撃を受けました。一方でというべきか、そのおかげでと言うべきか、街はとても安全で、スリにすら遭うことなく旅が来ました。また「シエスタ」という制度が都市伝説ではなく、今も実行されている事にも驚きました。シエスタで日中お店が閉まる分、夜は遅くまでやっていて、街は人で賑わっていました。

スペインと言えば「タパス」。その「タパス」を支えているのが、恐らく「オリーブ」や「オリーブオイル」です。オリーブやオリーブオイルと言えば、「イタリア」と思いがちですが、実はスペインのものの方が価格は安く、品質は高いように思いました。そして、恐らくオリーブオイルの質の良さが影響していると思いますが、「純石鹸」の質の高さにも驚きました。スペイン語もワンプレーズだけ覚えました。「カフェ・コン・イエロ」これでアイスコーヒーをスムーズに買う事が出来ます。ただし、私たちが思っているアイスコーヒーとは違って、エスプレッソを氷の上からかけて飲むタイプの濃いものです。

電車はやはり、日本ほど正確には到着しません。遅れる事があるだけでなく、早く到着してしまう事もあるのが不思議です。運転スピードをコントロールしきれていないのでしょうか。そして、遅れる時も早く着く時にも、当然ながらお詫びのアナウンスはありませんでした。現地の感覚に身を委ねて、ゆっくりと異文化体験を楽しむ事が出来ました。

## 浦田雅夫

30 年ぶりくらいに母親とふたりで大阪駅を歩きました。80 歳を超えたおばあさんですが、私よりも軽やかに人波をかき分けて前へ進むパワーに圧倒されました。しかし、大阪駅もすっかり変わってしまいましたね。

## 早樫一男

今年の夏も厳しい暑さが続きました。年齢を重ねるごとに夏の疲れを感じるようになって自分を再発見しています。

ここで、前回の短信では身の回りの物の整理について話題にしましたが、プライベートでは、5月中旬から、夫婦中心の生活スタイルになりました。

必要最小限のスペースと物に囲まれて生活しています。以前にも触れたかもしれませんが、家族の発達段階を着実に歩んでいます。

発達段階を理論ではなく、自らのこととして、身を持って味わっている昨今です。

この先は…と考えるよりも、これまでの予想外の歩みと出会いに感謝！

## 中島弘美

### ミニコンブ発表！？

CON(こん)カウンセリングオフィス中島、家族支援心理カウンセラーの中島弘美です。オフィスで家族面接をしながら、大学や専門学校で、カウンセリング論、心理学や社会福祉の授業を担当しています。学校以外に、対人支援にかかわる現場の職員さんや地域ボランティアの方々への研修もお引き受けしていて、支援する人への支援や養成にも関心を持って活動中です。

講座の講師をしていると受講者の方から、何か参考文献はありませんかとたびたび質問があります。これまでは本を紹介していましたが、最近キラリ☆とアイデアがひらめきました。それは、この対人援助学マガジン19～21号の「カウンセリングのお作法 1～3」分を印刷するのです。本をご紹介しても、入手までに時間がかかる場合もあるし、すぐに読み切れるものではありません。それに比べるとマガジンの連載分は、簡単に読み終えることができるので、お渡ししました。

そのままのサイズ印刷や A4 用紙にマガジン2頁分や4頁分を縮小します。マガジンを見てくださいとサイトをご案内するのも良いのですが、印刷したものを直接、お渡しするとすぐに読んでいただけました。

仕上がりは文庫本サイズの冊子です。

ミニサイズの CON(こん)のブックで「ミニコンブ！！」私は気に入っているのですが、このネイミングはやや無理があるでしょうか。

## 木村晃子

～ゼロ地点その3@ゆうぱり～もうすぐ一年

ちょうど一年前の9月をもって、息子は春に入学した大学を辞め、家を出て、夕張という見ず知らずの土地へ就職しました。

冬を越し、春が過ぎ、夏も越そうとしています。一年近くのひとり暮らしと、仕事の日々を経験し、すっかり逞しくなっています。障害をもつ子ども放課後等サービスの支援員をしていますが、夏場は農家の手伝いや、地域のイベントの手伝いなど、様々なことをしているようです。自分が何をしたいか、というよりも、今、与えられた仕事をしながら社会を知っていくことの面白さを実感しているようです。息子は10年後、何をしているのだろうか？と思うことがあります。何をしてもいいから、元気に楽しく仕事をしていたらいいなと思います。親の手から離れれば、離れるほどに、未知なる世界が広がっていく。いつの日か、親を追い越して行く日が来ると思うと、それが何よりも楽しみです。

バーベキューの炭おこしができたり、除雪機で雪を飛ばしたり、電動草刈機で、広い公園の草刈をしたり。そんなことができる息子のことをかっこよく思う親バカです。北海道 当別町 普段はケアマネジャーとして高齢者支援をしています。



## 藤信子

この夏の異常な暑さは、体力を弱らせるように思うのは、年齢のせいだろうかとはんやり考えている。でも今週の終わりが

ら、クロアチアの Rovinj に IAGP(国際集団精神療学会)の大会に参加するために出かける。Rovinj はアドリア海のヴェネチアの対岸にある町で、現在はクロアチアに属するが、13世紀から18世紀までヴェネチア領だった。旧ユーゴスラビアだったこともあり、今回の大会のテーマ「危機の中での絶望と願い…」というテーマで、社会的無意識や災害(人的あるいは自然)などにも多くの話題が出るようだ。海や町並なども楽しみで、Trieste から Rovinj へのバスのチケットを予約したり準備している。

## 中村周平

前々回の寄稿で、応用人間科学研究科で家族クラスターの先生方や当時院生をされていた北村さん、同じクラスターの方々を支えていただきながら書き上げることができた修士論文の内容を終えることとなりました。次回からは、「応用を出てから自分が感じたこと、学んだことなどをもとに書き出すんだ」と思ったとき、なんとも言えない不安に襲われました。何か背中を支えてもらっていた大きな板が無くなってしまったような…。団先生に修了後初めてオフィスアワーのお願いをさせていただいたところ、在籍中と何も変わらない、温かいメールをいただきました。そして、いつもの修学館でマガジンのことだけでなく、いろんな話を聞いていただきました。団先生、ほんまにありがとうございます。対人援助学マガジンは、なぜ「対人援助学マガジン」なのか。発刊に至るまでの先生の想いを聞くことができ、何か胸がスツとする思いでした。これからも、頑張ります！

## 浅田英輔

4月に異動してもうすぐ半年になろうとしています。仕事もだいたい慣れたし、周りの人にも恵まれています。職場が街中にあると、ランチが楽しくて(児童相談所はだいたい街から外れたところにある)、毎日あちこちいってみたいです。8月にはねぶた祭りがすぐ近くで行われました。ねぶたは青森県庁の周辺を回るので、昼休みに外にでると既に場所取りをしている人がいたり。交通規制が始まる前に帰らなければ、ねぶたが終わるまで帰れなくなっ

たりもするので、早く帰る人が多いです。仕事していてもいいのですが、囃子が聞こえてくるので「じゃわめぎ」ますねー！来年は子どもたちと一緒に跳ねよう！

## 中村正

ノーベル賞の天野先生の妻は大学時代の同じサークルの後輩で、この間かなり取材に応じていてその個性派ぶりは当の本人よりも目立っていた。この姿をみた大学時代の仲間たちは何も変わっていないと思いつつ、久しぶりに彼女に会い、ノーベル賞の前後の話をしてもらおうということになり、五山の送り火の余韻もまだ残る京都で15人ほど集まり、懐かしい話をする事ができた。天野先生が研究に没頭できるほどの時間をつくったのは確かだが、だからといってノーベル賞の裏にはそれほどの内助の功があったのかというくだらない話をここで伝えたいのではなく、彼女の自立した思考と行動が印象に残った。子育てを終えた彼女はさっそくロシアに渡り、かねてから計画していた日本語教育に取り組んだという。すでに大きくなった子どもたちと夫妻が授賞式のストックホルムで久しぶりに再会できたという。現地集合だ。メリハリのよい生き方をしているなと思った。今は天野先生も自活した生活を送り、それぞれが家族でありつつも目標をもって暮らしている。その自由奔放さに敬服した。



## 坊隆史

20回目を区切りで今号で連載を卒業します。初回は2話掲載だったため4年半ほど続いたこととなります。私にとっては驚くべきロングランです。少しは文章が書けるようになったでしょうか？もしそうだとしたら共著者の松本さんがおられたからです。また連載のきっかけを与えてくださっただけでなく世間話の中でいつも重み

のあるヒントを提供くださった中村正先生、  
×切には厳しくも温かくお見守りくださった編集長の団士郎先生、そして対人援助学マガジンに関する全ての方々にお礼申し上げます。

## 松本健輔

2011年からスタートした連載も今回でようやく終了です。男性援助という視点で続けてきましたが、その中であらためて自分の支援の視点は夫婦なんだということ強く感じました。また機会を頂ければ夫婦の視点で書かせて頂ければと思います。

この連載の場を提供して頂いた団士郎先生をはじめ、対人援助学マガジンの編集の方々、連載を勧めて頂いた中村正先生、執筆と一緒にさせて頂いた坊隆史さんにこの場をお借りして感謝を申し上げます。

<http://www.hummingbird-cr.com>

HummingBird 代表

## 牛若孝治

6月、久々に盲学校の同窓会に行った。私はもともと、同窓会が好きではない。なぜなら、「あいつは今何をしてるか」とか、「あなたは今どうしてるか」など、方々から聞かれ、それに答えるのが面倒だから。それに、私の頭は、数字やデータならすぐに覚えらるのに、人の噂となると、まるでざるのように聞いたしりからどんどん忘れていく。酷いときには、「この前、あの人についてこういう話をしたのに、もうあなたは忘れてるのですか？」と怒られたり、「あなた、その話前にもしてましたね」と嫌味の一言も言われたり。とにかく私の頭、人の噂となればからつきし弱いのである。

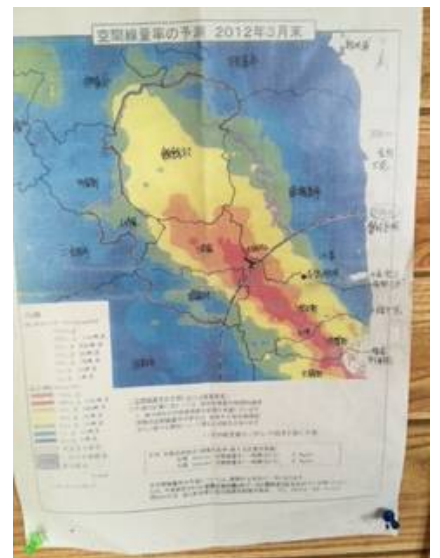
その私が、どんな理由で今年盲学校の同窓会に行くことになったのか。別に、誰かから誘われたわけではないし、「来なければだめだ」と言われたわけでもない。本当に会いたい人に会いたかったからだ。その「本当に会いたい人」が、毎年のように同窓会に顔を出していたことは、毎年盲学校から発想される同窓会誌で知っていたので、よし、今年はその人に会いに行こう、と思って行ったのである。

私自身、自分らしく生きるために氏名変更したり、服装のイメージチェンジをしたり

したのだが、いたって普通に接してくれたので安心した。「おめでとう。自分らしく生きるとはいいことやな」と言ってくれた人もいた。よかった。たまには同窓会行ってみるのもええもんやなあ。

## 袴田洋子

ようやく書き上げました。時間がかかってしまいました。援助職として、自分が今後、どう成長していけるのか考える、真面目だけど不器用な自分がいます。でも、そんな自分は、嫌ではないなあと思えるので、よしとします。



## 団遊

うちの妻はヨガをやっています。最近、何気ない雑談の中で「ヨガ・キャンプだったら顔見知りゼロでも一人で海外に行って楽しめると思うなあ」と言いました。趣味が一緒だということで一定の安心があるし、友達ができなくても、ヨガして食事して本読んで、の旅に充実感があると思う、と言います。

妻の趣味はヨガと料理。ぼくの趣味はスキーと競馬。まったく被らない夫婦だし、結婚する前にお互いの趣味を確認したこともありませんでした。ただ、そう言われると、ぼくも確かに海外競馬の旅なら同じように一人でも喜んで行きたくなるな、と思いました。

お見合いや合コンで定番の質問、「ご趣味は？」に、ぼくはこれまで「趣味なんか聞いてどうなんねん」と鼻で笑うようなところがありました。仕事や交流会で出会う

人の中にも「趣味は？」と聞いてくる人がいて、「それ、なんで知りたいねん！」と相手にしないようなところもありました。でも「そうか、趣味が合うとラクなんだ」と40歳にして気が付きました。

きっと世の中の多くの人はすでに重々承知のことなのでしょうが、ぼくの最近の大発見はこれです。

## 乾明紀

前々号の短信で我慢も出来ないほどの歯の激痛について書き、前号でツボを押したり、口の体操をしたりしたことで少し楽になったことを書きましたが、8月になって、また新たな変化が起きました。歯磨きの際にフロス(糸ようじ)をしたら、痛かった歯に詰めてあった金属が外れたのです。外れたことで神経が剥き出しになり、あの激痛が復活するのではという恐怖が私を襲ったのですが、しばらくしてそれは杞憂に終わりました。詰め物が外れたことで神経にかかる圧迫が弱まり、なんとも言えない開放感が奥歯に訪れました。その後、新たな素材で詰め直してもらいましたが、ようやく奥歯でも少しは噛んで食事ができるようになりました。まだ万全には程遠いですが、改善の方向に進んでいると感じられた8月でした。

## 大石仁美

ワンちゃんと暮らすようになって、生活がかなり変化してきました。ガサツという物音や、キューンという鳴き声にハッと目が覚めてしまうので、早朝4時にはもう眠れなくて起きてしまうのです。赤ちゃんのいるお母さんみたいで、自分でも可笑しいのですが、仕方がありません。夜型の私が大きく朝型に傾いてしまいました。といっても夜、早く寝られるわけではありません。だから昼間眠くてねむくて…そのうち、自然に生活スタイルが出来てくるだろうと楽観していますが。

早朝5時に散歩に行くようになってから、知らなかったことが見えてきました。バイクで新聞配達をするお兄さんたちの姿がちらほら目につきます。みんなえらいなあ。でも、自転車でも静かに回っているおじさんの方が私的には優しくいい感じ。ゴミ収集車(有料の)が凄まじいスピードで走っ

てきて、一瞬ワンがおびえます。業者はこんなに早くからゴミ集めに回っているのかあ。5時半近くになると、お勤めに出かけるらしいおじさんもちらほら。あれ、若い女の子もこんなに早く!? と思っていたら朝帰りの方でした。道路には、前夜から出していたらしい市のゴミ袋にカラスがたかり、手の付けようがないほどの散乱状態。きまっぴつとも同じ場所です。

最近建てられたマンションは業者委託されているようだけど、ここは違うみたい。ワンは必死になってカラスを追い掛け回そうとするので、私は引っ張られて転びそう。住人たちは話題にしないのかしら? 誰が片づけているのだろう。

犬の目線で街を眺めてみると、意外にも至る所ゴミが落ちているのに気づきます。駄菓子の包み紙、インスタントラーメンの袋、タバコの吸い殻。なんでこんなものが多いもの。とりわけ自動販売機の周辺が多いです。ワンはまだ子どもなので好奇心旺盛で、なんでも口にするので気が気ではありません。特にタバコのポイ捨ては多いです。町のひとたちは、苦々しく、なかば呆れながら、毎朝家の前を掃き清めているのでしょうね。黙々と。夜に捨てられたゴミは、善意の人々によって朝には整理され、こうして一日のサイクルが回っていくのでしょう。

日本の、門ばきという習慣のある京都ならではの朝の始まりです。



## 村本邦子

この夏は、キューバ&メキシコを旅した。あまりにシステムが違いすぎるから戸惑いも大きかったが、それはそれで面白味

わい深かった。ケセラセラの雰囲気呑まれて、あろうことかキューバ&メキシコの飛行機に乗り遅れてしまった。賄賂を払って次の便にらせてもらったまではよかったが、予定の飛行機に乗らなかったため、機械が勝手にその後の行程をキャンセルしてしまい、復旧に苦労した。

帰ったら、早速、札幌で仕事、そのままこれから福島、秋田と北上して、5年目のむつへ行く。サバティカルというのに、ますます忙しい1年になりそうだ。

## 國友万裕

先日、ある男性と偶然ばったり会いました。その人のことは15年以上前から知っていて、5年前にお会いしたきり、会う機会もなかったのです。ちょっとだけ立ち話をしたのですが、気づいたことは、話し方や仕草がすっかり女性になってしまっていることでした。その人は携帯を取り出すと、「実は、私、今こうなのよ」と女装した写真をみせてくれました。

いつからこんな趣味に……。昔からそうだったのを隠していらしたのか、それとも、最近になって目覚められたのか。ちなみに、その人はゲイではないですし、同一性障害というでもないはず。単に女装趣味。

「きつと、\*さん、男っぽいですね」とぼくは言いました。一般に女装趣味の男性というのは、性格的には男っぽくて、自分の女性的な部分を抑圧しているからこそ、たまに女装を無性にしたくなって、女装をすると解放された気分になるのだということは、本で読んで知っていました。「俺は逆なんです。だいたいムキムキになってきたでしょ?」とぼくは、自分のシャツをめくって腕の筋肉をその人に見せました。「そうだね。昔とイメージ変わって、一瞬、國友さんだと気づかなかった」とその人。ぼくは、男っぽくないから、むしろ、スポーツクラブで筋トレしているときに解放感を味わいます。女装趣味は全然ありません。

性って、本当に不可解です。人によって、様々なとらえこみがあるのです。したがって、ぼくは性的マイノリティという言葉に違和感を感じます。人間のジェンダーやセクシュアリティは千差万別なので、単純に同

性愛・異性愛と分けられるものじゃないし、完全に自分のジェンダーに同一化している人なんているのかと思ってしまうからです。

だけど、性のことで悩んだ経験のない人は、ジェンダーやセクシュアリティの多様性に気づかず、単純な社会の規範を受け入れ、規範に沿わない人を異常視しようとします。いつになったら、ぼくの主張をわかってもらえる日が来るのか。まだまだ道は遠いけれど、この頃、ぼくの周りでは自分の性の独自性をカムアウトする人が多くなってきました。

## 北村真也

認定フリースクール「アウラ学びの森知誠館」代表。(http://tiseikan.com)

今年の夏休み(1週間)は、どこへも行きません。実は妻も娘たちも、それぞれにいろんなところへと出かけていくので、私が留守番をすることになってしまいました。こんな夏休みを過ごすのは何年振りでしょう。何か新しいことにでも、目覚めるかもしれません。

## 古川秀明

「スーパースターになって、お金をたくさん儲けて、とびきりの彼女を連れて、でっかい外車に乗るんだ！」

これは私が16歳の時の夢を歌にしたものです。結局夢は叶わなかったのです。「夢は信じれば叶う」なんて、そんな言葉は信用してはいけなかったのです。

人間は夢など見なくても生きていけるのです。目をキラキラ輝かせて明日など語らなくても良いのです。だけど、叶わない夢の方が、自分を強く、そして深くしてくれる力があるようです。叶わない夢の中にキラキラ光るダイヤモンドがあることに50を超えてから気づきました。

シンガーソングライター

## 西川友理

京都西山短期大学の講師です。

この対人援助マガジンの原稿作成は、大体締め切り1ヶ月くらい前にアイデアを書き散らすところから始めます。

書き足したり、文章の順番を変えたり、調べ物をしたりして、2週間くらい経ったこ

ろに、突然「あ！こういうことか！」と、それまで書いたものの大半をひっくり返すような気があります。そこから大抵、イチから書き直します。残り1~2週間で文章を仕上げ、締め切り日の締め切り時間のギリギリのギリギリに何とか仕上げ、データを送ります。

「あ！こういうことか！」の瞬間が最高に気持ちいいのですが、「あ~またイチから書き直さなきゃならないか。うん。よし、頑張ろう」と覚悟を決めなおす瞬間でもあります。

暗い山道を歩いていて、パッと明るい場所に出ると、一気に目の前に風景が広がる。パッと顔が太陽に照らされて白く輝く。「面白い」の語源はここからきているとのこと。「あ！こういうことか！」の瞬間の面白さは、まさにそんな感じです。

で、今回その瞬間が来たのが締め切り2日前！ちょっとこれはしんどいけど、気づいてしまったからには書き直さなければ、納得いきません。うん、よし、頑張ろう。

## 坂口伊都

近況を書くと思ったのですが、連載の方に実況中継のような近況を書いたので、今とても困っています。いかに、里親委託のことで気持ちがいっぱいになっていたのかがわかります。それだけ余裕がないということですね。

そのような中で、辻村深月氏の『朝が来る』という本に出会いました。団先生やFさんが薦めていたので、猛烈に読みたくなくて手に取った本です。特別養子縁組の話なのですが、それぞれの立場での想いがあって、物語に引き込まれていきました。読み進めている間、何とも言えない色に包まれているような感じがしました。ここでストーリーを話すと楽しみが減るので書きませんが、朝は来るのだという励ましをもらいました。弱っていたので、気持ちを切り替える手助けになりました。

実子がいる中で養育里親をすると、子どもがいるのにすごいですねと言われることがあります。私からしてみれば、子どもがいてくれるから迎え入れられる部分もあるのです。高校1年生の息子は、面倒くさいと言いながら宿題を見てくれたり、ゲームをしたり、お風呂に入ったたりしています。も

う少しやさしく教えてやってねということもありますが、お兄ちゃんとして貴重な存在になっています。子どもがいるから助けられていることも多いです。

子どもができない夫婦の選択肢としての葛藤と養子を迎えようとするのも「覚悟」なのだと思います。子どもにとって大切なものを子どもと一緒に大切にしていける親になることの優しさと強さを『朝が来る』中にも感じました。当たり前ですが、子どもを迎えるというのは簡単なことではないのです。私も、親として優しさと強さの両面を持ち合わせていけるようになりたいと思います。中途半端な説明で申し訳ありません。気になった方は、どうぞ手に取ってみてください。感動を分かち合いましょ(笑)

## 河岸由里子

最近、スマホデビューした。ずっとガラ携で過ごしてきたし、今も一台はガラ携である。かかし用の携帯のメール容量が少なく、クライアントさんが長いメールを送って来られるので、一々別の所に移動させるのが大変だった。今度は容量が大きいのでこれで困らないと思う。スマホにするのに、どの機種にするか随分迷ったが、結局Iphone6plusにした。画面が大きいのが気に入った。ついでにipadも買った。一度に二つもおもちゃを手に入れた雰囲気である。取説は全部ネットで見るのだとか、今ウラシマを感じましたが、あれこれいじりながら、その都度悩みながら、或いは皆さんに教えてもらいながら、少しずつ慣れてきている。ガラ携でもその機能を全部使いきれてはなかったが、このスマホの機能、どこまで使い切れるか…。遊びながらやってみたい。

北海道かうんせりんぐるうむ

1かかし主宰 臨床心理士

## 団士郎

並行して複数の本を読むタイプだ。小説とノンフィクション、専門書とコミックスなど、複数持ち歩いて(kindleも含む)楽しんでいる。描くのも書くのも、話すのも訓練するのも、みな並行である。

だらだらと終わらないのが得意だから、新しいことを始めようとすると、たいてい従

来のものと同様に並行になる。

今回からまた、新連載である。「蠅螂の斧 第二部」はどうなるのかと思う方があられるかもしれないが、あれはあれで継続中だが、当分はお休み。又、十数年前の日々を振り返る時がやってくるだろう。



執筆の同時並行。しかも一つの誌面で突然チェンジという身勝手さである。今回ははじめのところで書いているように、新連載は「家族理解入門」中央法規刊の「続」編である。

厳密な計画性は持たないが、結果として成果が積み上がっていくのが好きだ。目標を設定するのではなく、日々の実践の蓄積には結果が出ることを疑わないのである。あちこちに書いたものや新たに書き加えたものをアレンジして、一つにしていけるのが楽しい。良いものになるかどうか、やってみなければ分からない。飽きてしまうかも知れないし、続くかも知れない。それも楽しみだ。自由という無責任は、簡単に手に入るものではないから、それを堪能することにしよう。

## 岡崎正明

何年か前に若い歌舞伎役者が酔って喧嘩沙汰を起こした事件が話題になった。「俺は人間国宝だぞ！」というセリフにはウケたが、批判や擁護を繰り返すテレビに、正直「何を今さら」というのが率直な感想だった。

猿楽や傀儡子などの古来より、芸人というのは通常の枠にはまらない、もしくはその中では生きられない人達の集団である。その型にはまらない自由さが、新たな芸術を生み、ときには政府批判で市民の喝采を得たり、ときには権力者のパトロンにより大いに隆盛したりした。その「自由

さ」とは言い換えれば「一般の安定の外」にあるという魅力であり、人々から羨望のまなざしを向けられると同時に、「芸人になるなど許さん！」と、外道な存在として忌み嫌われた存在でもあった。

考えてみると「もうパンツはかない」といったおじさんや、「芸術は爆発だ！」といったおじさんとは、正直友達になれそうもない。なんかすげーなあとは思いますが、言うてることの半分以上、こっちの常識の範囲外なわけで、『異能の人』というのは、やはりそういう品行方正とか、世のマナーとかとは別次元の所にいるからこそ、激しく輝いているのだ。芸は一級だが、素行や性格は最悪なんて話は、昔から掃いて捨てるほどある。そうでなければ、新たな価値なんて生み出せないのかもしれない。

相変わらず世の中は16、7歳の若手女優(つーか、子ども)が職業軽視発言をしたのだと騒いだりしている。10代の子が軽率に発言しなかったら、挨拶くらいしかできないじゃないか。

おまけに最近ではインターネットの普及で、これまでなら近所の話題で済んでいた話が、あっという間に世界の端まで届いてしまう。ちょっと変わった素振りや打席に立った高校球児まで、知らない評論家に怒られる始末だ。

こんなことしてたらどうことが起こるかという、異能の人が才能の芽を出す前につぶされ、イノベーションのチャンスが遠のくということと、誰もが通り一遍の建前しか言わなくなる、見え透いた嘘の社会ができていくということくらいだろう。

そこから抜け出すために、私たちはもっと「寛容さ」を大事にしたい。難しいことではない。自分にしているように、相手にも、もう少しいい加減でいればいだけである。 [buimen0412@yahoo.co.jp](mailto:buimen0412@yahoo.co.jp)

## 鶴谷圭一

今回はちょっとしたアクシデントがあったので休載させて頂きました。

実は、お盆前に台風12号のうねりが押し寄せる御前崎でサーフィンをしていて左膝の内側側副靭帯をのばしてしまい、激痛のため歩くこともままならず思考停止になってしまったためであります。(なんだあ〜そんなことかあ、ですよ。スミマセン)

マガジン本編は無いのに短信だけでもという編集長の計らいでちょっとしたアクシデントの顛末を報告をさせて頂きます。

整形外科に行くか迷いましたが、行きつけの整体師さんに治療を懇願、全身をみほぐし、問題の膝もグイグイと揉んで伸ばして、激痛で悶絶しながら耐えていましたら、ある瞬間スポッとハマって「おお！魔法のように歩けるように！」なったのですよ。ほんとに整体ってすごいなあ、と感動！

整体師さん曰く「整体は国家資格じゃないから患者さんの本当に必要な治療ができる。技術は奥義みたいなもので先代から受け継いで、自分の指をセンサーにして何年もかけて体得していくんだ。」と仰っていました。一日揉んでいて疲れませんか？と聞いたところ、「むしろ初めての患者さんが来て、どうやったら筋肉がほぐれるか、どこがツボか指先に神経を集中して探していくのがいちばん疲れる」とも話されていました。

その日は、激痛も治まり安堵のうちに帰宅できたのですが、バカですわねえ、ちょうど一週間後に再発させてしまいました！思い起こすのもつらいその日は、幼稚園協会の会議に出席するため、電車で1時間かかる静岡市まで行かなくてはなりません。電車で遅れそうになった僕は駅に向かって小走り…そのとたんガクンと激痛が走りあの悪夢が再来！左足をほとんどつけない状態に陥ってしまいました。あと10m…なんと駅まで長い距離か…そして階段、電車は入ってくる、びっこを引きながら無理矢理跳び乗る…これがアウトでした。そのまま静岡駅へ。

電車で降りるときは、車内の人が出終わって人波が引いてから出ようとタイミングを見計らいますが、乗り込んでくる人がすぐ来るんですねえ、焦りました。…焦って動くとズキン！痛い！ホームに出たら次は階段！改札まではまだまだ！ベンチはないか！と、「ズキンズキン」が頭のほとんどを埋め尽くし、歩くとたびに痛みが増す足を引きずりながら駅をさまよいました。いや、さまよったのではなく、いつものコースをたどって改札を出ただけですが、かかった時間も景色もまったく違うものに映りました。

やっとのことで駅前広場にベンチを見つけ、途方に暮れて膝をさすっておりました。会議開始まではあと40分、昼飯を食べねばと意を決して目の前にあったSUBWAYというサンドイッチ屋さんのショーウィンドウ越しに客の流れをじーっと観察し、すいた時を見計らってカウンターに突入！店員さんが満面の笑みで「パンの種類は何になさいますかー？ホワイト、ウイト、セサミ……」『こっちは立ってるのつらいんだよ！早くして！』と言いたくなるのを押し殺し『…じゃ、セサミで…』『レギュラーですかロングですか？』『お野菜は全部入れて良いですか？』『お飲み物は？』…『ハヤク、あ、いやアイスコーヒー』『ご一緒にポテトは？』『イ、イタイ』『は？』『い、いりません！』注文するのにこんなに手続きがあったとは、普段なら気にもしないところ…冷や汗がシャツの内側を伝って落ちました。

片足を引きずりながら、サンドイッチとコーヒーを載せたトレイを持つのがなんと難しいことか。ターゲットにした座席を目指し精一杯の我慢力を使ってギクシャク歩み寄る哀れな男一人…誰も助けは来ない。

その後の長い話は割愛しますが、街ってこんなに不便だったんだ！やさしくなかったんだ！と不自由な身になってはじめて実感したのであります。痛かったけど自分の視野を広げる良い経験だったともいえます(;>\_<)

地元に戻って休診日の整体の門を叩き、2回目の治療をお願いしましたがこんどは「スポッ」がくるまでに前回の3倍90分かかりました。なんと長かったこと、背中は冷や汗でびしょりでした。

それなのに、そんなにつらい思いをしたのに夏休み明けの幼稚園で仕事していて、また再発！この日がマガジンの締切日でした(T-T)。3回目はいくら揉んでも治らず痛い足を引きずりながら帰宅し、寝ているしかありませんでした。バカバカバカ！なんてバカなんだ！あしたは医者だな…』と思いつつ。ところが不思議なことに風呂に入ってしまったら「スポッ」が来てくれました。

それから2週間経ち、現在は抱えた爆弾をこんどこそ爆発させないように慎重に過ごしているこの頃でございます。ここまで

読んで頂いた皆さん、疑問を持たれたのではありませんか？

「なぜ真っ先に医者に行かない?!」ホントに腕の良い整体にかかると、病院に行かなくてはならないか整体で治るものか判断してもらえます。今回は後者という判断なのです。

お陰様で整形外科で膝をガチガチに固めることもせず、痛み止めも服用せず動けていることに感謝！今回の教訓。持つべきものは、名人の整体院なのです。チガウダロ！(-.-#)

原町幼稚園ホームページ

<http://www.haramachi-ki.jp>

メール osakana@haramachi-ki.jp

ツイッター haramachikinder

## 千葉晃央

京都造形芸術大学こども芸術学科で非常勤講師をさせていただいた前期。壁にある予定表をちらっと見たときに見つけました。「tupera tuperaさん特別講義」の文字。tupera tuperaさんといえば！



「しろくまのパンツ」「ぼうしとったら」の2冊は本屋で衝撃的出会いで購入！「パンダ銭湯」はまた異なったタッチで、衝撃の展開！他にも…な先生がここに来るんや！ということでちょうど授業日が一緒だったので、講師控室で「出待ち」ならぬ「帰り待ち」。tupera tupera (ツペラツペラ)の亀山達矢先生にお会いできました。ご夫婦で

tupera tuperaというユニットですので「役割分担は?」「どういう媒体を使って試作をするんですか?」「どういうスタートで作品が生まれるんですか?」などなど、話を伺ってしまいました！自宅から持っていった「しろくまのパンツ」「ぼうしとったら」にサインをお願いしたら、こんなに丁寧に名前まで入れてくださいました！感激！亀山先生は「これ初版本ですね！表紙裏の紙の色がこれだけ違うんですよ」とにわかフ

ァンではないことを認めてくださいました。「ワークショップで大切にしていること」「紙質の選定の大切さと紙の加工コスト」などたくさん話を教えていただけました。私の勤める京都国際社会福祉センター療育相談室の支援場面でもtupera tuperaさんの本は大人気！そんな方にお会いできてうれしかったです。ちなみに「しろくまのパンツ」のパンツの替えは80円で販売しています！



## 大川聡子

告知です★11/26(木)13:30～16:30に、あべのハルカス25階会議室にて「支援が必要な母親への妊娠期からの関わりを考える国際シンポジウム」を開催することになりました。

昨年知り合ったニュージーランドのPlunket Nurse(母子の家庭訪問を中心的に担当看護師)Nicky Skerman氏の「支援が必要な母親と妊娠期からどのように信頼関係を構築するか」と題したご講演と、支援が必要な母親への関わりを研究・実践されている保健医療専門家のパネルディスカッションの二部構成です。対象は保健・医療・福祉関係者の皆様です。通訳あり、参加費無料です。お申し込みは、件名を「11月26日シンポジウム申込み」として①お名前 ②ご所属 ③職種 ④電話番号をご記入の上メールをお送りください。宛先: phn-nz@nursing.osakafu-u.ac.jp 定員に達し次第受付を締め切ります。たくさんの方のご参加お待ちしております。

## 大谷多加志

ここ数ヶ月で、仕事が質的に変化しました。まず職場にいる時間が減り、移動が増えました。時には電車で、時には徒歩で、時には車で、近隣府県を動き回っています。

もう1点、質的な変化を感じるの、人



に動いてもらう場面が増えたことです。これまで忙しいと言ってもあくまで自分の手元にある仕事の範疇だったのですが、今は何かを依頼したり、実際に動いてもらったり、後のフォローをしたりという連絡調整の仕事の割合がかなり増加しました。検査の改訂という大きなプロジェクトに取り組む中で、多くの人の力が必要となり、結果として今の状況に至ったと思っています。人と人の中で起こることなので、色々ややこしいこともあります。多くの人と共に仕事ができること、利害ではないところで支えて下さる人と出会う経験は、何事にも代えがたく貴重です。

今回、2本の連載のうち「K式」をテーマとしたものはお休みしました。

## 竹中尚文

浄土真宗本願寺派専光寺住職

8月10日、山田明爾先生が亡くなった。私が龍谷大学に入学して間もない頃、学内でアフガニスタンの発掘から帰国したばかりの先生の講演があるというので、聞きに行った。あれから40年、昨年末にある学会発表で山田先生の名前を見かけた。聴きに行って、80歳にしてこれほど前向きな研究をされる心に驚いた。◆私は、山田先生に研究方法から生き方まで習ったように思う。それは、ちょうど“Tuesdays with Morrie” Mitch Albom(邦訳『モリー先生との火曜日』NHK出版)のモリー先生とミッチの関係のようでもあった。私がこの本を買ったのは2000年頃、全米でベストセラーになっていたのでカリフォルニアのパークレーの書店で買った。先月、偶然にパークレーから来た高校生と話すことがあった。本の話しになって、この本屋の話しをした。彼女は知らないと言う。大学の正門を出てしばらく歩いた角にあると説明しても、彼女は首を捻る。後で、ストリートビューをみたら、その本屋は閉店をして取り壊し寸前であった。◆専門書も充実していて、大学生や教員かと思われる人たちが賑わっていた書店がなくなっていた。書店がドンドン閉める時代である。それでも本を使うことを本務とする人たちに支持させる書店が閉じるなどと予想もしなかった。時は流れる。時間の経過と共に社会も変容する。命も含めた存在が、消えていく。

それが摂理であると分かっている、悲しい。でも、消えていく前に会えたことに喜びがある。いのちに出会えたところに喜びと感謝がある。ありがとう 合掌

## 川崎二三彦

ホテル暮らし

この3月、8年間の単身赴任を終えてようやく京都の自宅に戻り着いたこと、新年度からは、かわって週2日だけの勤務となり、京都-横浜を1泊2日で往復すればよくなったこと、週のうち残り5日はフリーの気ままな生活、といういささか気が引けるので、自営業の看板を出そうと「Guan」という名前まで考えたこと、などを前号で紹介した記憶があるが、今号はその後の近況報告である。

\*

なんと言っても予定外なのは、週1泊ではすまされなかったことだ。数えてみると、業務外の個人的な都合も数泊加え、新年度に入って4月は10泊、5月は11泊、6月は11泊、7月10泊、8月は9泊という数をホテルで宿泊したことになる。



新幹線は、JRエクスプレスで常時10本ぐらいはネット予約をしているし、飛行機は、ついにダブルブッキングしてしまった。あるとき、ANAから「ご搭乗前日になりましたので搭乗口と搭乗方法をご案内いたします」という案内メールが届いたのはよいとして、気づくとそれが2本続けて着信している。

「なんとまあご親切なことか」

などと感心しつつよく見たら、行き先が違っている！同日同時刻に、高知と大分の両方に出発することになっていたのである。

大いに慌てたのは愛嬌だとしても、苦労するのは、ホテル暮らしの煩わしさである。何しろ、どこへ行くにもお泊まりパックを持ち運ばなければならぬので、やたら

と荷物が多くなる。ホテル備え付けのコインランドリーも利用したが、いささか疲れ気味というしかない。

ついでに言うと、ホテルに新幹線、飛行機代などが加わりカード支払額も大幅にアップ。時として、店舗窓口で、「このカード、使えませんけど」などと言われてしまうことも出てきた。限度額を超えているため、カード会社が使用を差し止めているのである。

\*

それからこれは、ホテル暮らしとはたぶん関係ないだろうが、ここにきて大いに困っていることがある。それは、「右上腕二頭筋長頭腱炎」を発症したことである。原因は、ほぼ間違いなく長時間のパソコン使用である。我慢できない痛みではないが、パソコンに向かえば常時痛みを伴う症状に意欲をそがれ、業務は大幅停滞。ついには鍼灸治療を始めてみたところ、何となく調子はよいように思えたのだけれど、帰宅して右肩をみると内出血して青くなっている。針治療って、こんなことになるの？と思うと治療意欲減退、未だ方針立たず、業務に支障甚だしく、苦慮している最中である。などと書き散らしているうちに、またしても右肩痛が悪化してきた感じ。近況報告も、もはやここまでとすしかない。(2015/08/30記)

## 荒木晃子

新連載から7稿目にして、やっと本文に突入した感がある。少々長いプロローグではあったが、生殖のテーマを語る際には、いずれも欠かせない領域だと(自分なりに)納得する。ただ一点、20・21号と続く「島根モデル」の取り組みの報告が、途中でとん挫したままなのが気がかりだが、こちらは島根県内で医学官民の援助者の連携ができつつあり、現在も島根県人のペースで継続中。信頼のおける連携とは、なんとありがたいものだ改めて実感する。いずれ、どこかで吉報をお届けできることだろう。

先日、民間NPO団体と一部の医療機関が連携し、国内の法整備を待たずして、夫婦以外の第三者からの提供卵子による受精卵が作製した旨報告があった。それを耳にし、筆者のおしりに火が付いた。「こ

れは先を急がねば！」。折しもタイミングよく、D 先生ご推薦の辻村深月著「朝が来る」(文藝春秋,2015)を読破し、何かしら“もぞもぞ”していた頃だったので、一気にアウトプット作業に移り、本稿の執筆に至る。手元にある、既に完成間近の「島根モデルの続編」は、今後の出番を待ちながら保留することにした。

突然ですが、ここで、クイズ。

**Q:今回、受精卵は、レシピエント夫婦子と、ドナー女性の提供卵子で作製されたが、果たして、現時点で「受精卵の所有権」は誰にあるのでしょうか？**

さて、みなさんはどうお考えだろうか。

## サトウタツヤ

対人援助学の縦横無尽、は今回もお休み。せめて、近況報告だけでも参加しないと消えていってしまいそう。。。

9/8現在、欧州発達心理学会出席のためポルトガルの Braga という街に来ています。

来る直前に『コミュニティ心理学研究』が届いたので見てみましたが、それは、昨年度の大会@立命館大学の特集でした。団編集長のマンガが掲載されていてびっくり。

学会誌の数ページにわたってマンガのみというのは珍しいのではないのでしょうか？

## 浅野貴博

1年ぶりの掲載になります。7月下旬に博士論文を無事提出しました。この短信を書いている時点では、Viva と呼ばれる口頭試問の日程は決まっていますが、Viva を経て必要な訂正が済んだ後に、正式な学位授与というプロセスになります(\*博士課程のプログラムの概要については、第15号で触れていますので、よければご参照下さい)。何とか予定の4年以内に提出することができ、ほっとしたというのが正直なところ。この4年間を振り返ると、博士論文に取り組む中で、研究者として研究を続けていくことの厳しさを実感し、当初は大きな目標(goal)だった PhD の取得が、これからの長いキャリアの中での大きなステップというふう捉え方が変化しました。アカデミックの世界は、

いわゆる「Publish or Perish(発表せよ、さもなくば滅びよ)」という言葉が示す通り、分野を問わず、研究者は研究論文を出し続けることが必須です。博士論文を元に、海外及び日本の Journal に数本の論文を投稿すべく、気分を新たに次の課題に取り掛かっています。

また、今年の1月に第4子である次男が生まれ、二男二女の父親になりました。3人目の次女がこちらで生まれており、出産の一通りの流れや手続きを把握していたため、こちらでの出産に対する不安はありませんでしたが、上の3人の子供達の世話をしながらでしたから大変でした(今も大変ですが)。1ヶ月程研究を中断し、友人達のサポートを受けながら、何とか乗り切りました。少子社会の日本で、4人の子供を持つというのは色々な意味で大いなるチャレンジですが、縁あって私達の家族に来てくれた子供達とのにぎやかな生活を enjoy(私が好きな言葉です)したいと思います。

## 見野 大介 みのだいすけ

陶芸工房 八鳥 hachi-dori

朝晩は涼しくなり、秋らしくなってきました。今年は暦どおりに季節が変わっている気がします。一日でも長く、秋を楽しみたいですね。

秋のイベントラッシュに向けて、日々制作を重ねております。ちょっと予定を詰め込みすぎたかとビビっておりますが…。それらが終わると、もう12月。12月は餅つきのお誘いが多いので、これまた大忙し。いっぱい餅ついて貢献したいと思いません。

この様子だと、今年もあつという間に終わりそうです。来年の3月には京都高島屋での個展が決まっていますので、気が抜けないうです。高島屋…、正直ビビってますが、楽しみです。

### - 年内の出展イベント -

9/19-28 味百選×器百選(京都・高島屋)

10/3.4 アートクラフトフェスティバル in たんば(兵庫・丹波年輪の里)

10/10-12 信楽セラミックアートマーケット

(滋賀・陶芸の森)

10/20-27 京都展おこしやすもみじの京都(三重・津松菱)

11/7.8 陶の作家展 in 明治村(愛知・明治村)

11/19-23 見野大介陶芸展(奈良・ギャラリーカフェタケノ)

**執筆者自身による挿入写真  
以外は、2015年8月、福島  
県飯舘村の「希望の牧場」  
並びにその近辺で、編集長  
が撮ったものです。**